

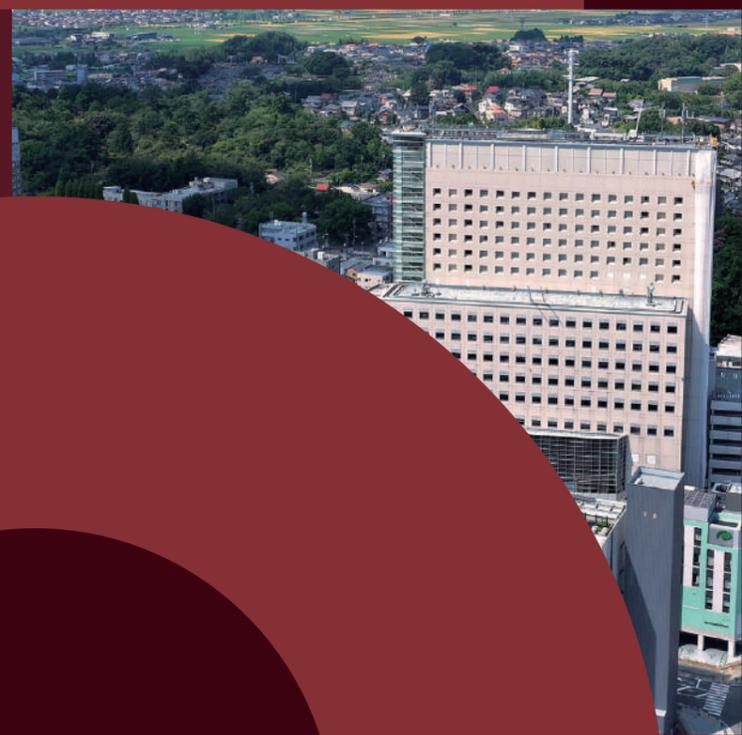
2024

第5回

WINTER DENTAL MEETING IN TSU

ウィンターデンタルミーティング in 津

主催：Winter Dental Meeting in 津 実行委員会



WDM in Tsu

WDMiT Webサイト



<https://www.wdmit.com>

12/15^{SUN}
2024

会場：アストホール(アスト津4F)

時間：9:50～(9:30開場)

WDMiT事務局 三重大学医学部附属病院歯科口腔外科

Mail:info@wdmit.com TEL:059-232-1111(内線5635)

第5回

Winter Dental Meeting in Tsu ウィンターデンタルミーティング in 津

— 開催のご挨拶 —

ウィンターデンタルミーティング in 津もお陰様で今年で第5回を迎えることとなりました。これもひとえに皆様方の温かいご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

2024年も様々な出来事がありました。日本では元旦の能登半島地震をはじめ、猛暑や台風、豪雨などによる自然災害に悩まされた一方で、少子・高齢化に伴う人口減少や国力の低下が静かに進行し、世界では長期化するウクライナ戦争に、中東紛争の勃発、その他いろいろな事象が急速に変化しているのを目の当たりにした1年でした。

その中でもひと際輝き続け、多くの日本人に勇気と感動を与えてくれた人がいました。大谷翔平選手です。大谷選手の活躍は誰もが知るところですが、リハビリ中の投手があれ程までに歴史を刻むことはこれからもないことと思います。投手としても復帰される来年がこれまた楽しみです。その大谷選手の幼少期からの教育について触れた書籍がありました。高校時代あたりからフィジカルに加えメンタル面でも指導を受け、鍛えられてきたようです。二刀流だけでなく、華々しい現在の活躍の土台には、天性と努力はさることながら、多くの方々からの教えがあったからかと思われま

す。今年の特別講演ではeisuの伊藤先生に「教育による日本再興論」と題してお話いただき、現代の教育とその未来展望などについての貴重な知見をいただきます。また、教育講演では国立病院機構榊原病院の鬼塚先生より「精神疾患へのスティグマ」のご講演を賜り、日常では知る機会が少ない精神科領域のトピックを学ばせていただく有意義なひと時になることと思います。

急速に様々な環境が変化していく昨今の社会においては、適応や対応を求められることから早急なノウハウの共有や即戦力が重要視され、実社会においてはSNSなどの普及による進歩と呼ばれる社会変化により、じっくりと物事を捉え、考える時間や方法が奪われているように感じられます。そうした今こそ、ウィンターデンタルミーティング in 津 の当初からのテーマである「すぐに役立つことが、長く役に立つ」中・長期的視野が求められているのではないのでしょうか。

今大会より当実行委員会に藤田 剛先生にも加わっていただくこととなりました。寒さに加え、お忙しい師走かと存じますが、次の時代や世代に向けた一歩を踏み出すきっかけに足を運んでいただき、また日々の診療や生活に新たな発見と気づきがある場となることを願って、より多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

ウィンターデンタルミーティング in 津
実行委員会 委員
第5回大会長 佐藤 忠

特別講演【13:00～14:00】

教育による日本再興論

～いま、子供たちに求められる学力とは何か？～

eisu 最高執行責任者
情報経営イノベーション専門職大学(iU)客員教授

伊藤 奈緒 先生

三重県松阪市生まれ。三重県立津高校、関西学院大学卒業。2014年よりeisusのCOO(最高執行責任者)を務め、以来、競争の激しい大学受験業界で第一線を走り続ける。大学受験指導者としての23年のキャリア、IT教育運営17年の経験、実業と並行して積み重ねてきた学術的研究、そして業界では珍しい女性リーダーとして広く世の注目を浴び、社内や業界内はもちろん、様々な教育機関・他業種において講演・研修活動も行う。2022年に三重大学大学院地域イノベーション学科修了。2023年『教育による日本再興論—教育は人と社会と国の未来を決する』(IBCパブリッシング)上梓。2024年5月情報経営イノベーション専門職大学(iU)客員教授に就任。



講演内容 -----

いま、子供たちに求められる学力とは何か？ この問いに答えるには、日本の大学受験の実態がいかなるものかを考えることが、有効な導入になるでしょう。なぜなら日本の教育は、望むと望まざると、究極的には大学受験に適應できる学力の育成を目指して行われているからです。そして大学受験の実態を深掘りすることで、その背景にはどんな社会的現実があるか、またそうした現実がいかに立ち向かっていくべきかも見えてきます。

教育とは、人間自身の価値を高めるための投資です。そして人的資源の発展は、そのまま組織・地域、延いては私たちの国全体の発展に直結します。教育は、専門家にだけ任せるものではなく、私たち全員が関心を持って取り組むべき社会全体の課題であり、いま様々な困難に打ちひしがれている私たちの国を再興するカギだと信じます。

今回の講演を機に、ご聴講くださる皆さんと、こうした問題意識を共有できれば幸いです。

教育講演【15:00～16:00】

精神疾患へのスティグマとは？

独立行政法人国立病院機構 榊原病院 院長
鬼塚 俊明 先生

平成3年 九州大学医学部卒業
平成3年 九州大学精神科神経科入局
平成12年 ハーバード大学研究員
平成16年 九州大学病院精神科神経科 助教
平成18年 九州大学病院精神科神経科 講師
平成27年 九州大学大学院 精神病態医学 准教授
令和3年 九州大学大学院 神経画像解析学 教授
令和5年5月 国立病院機構榊原病院 特命副院長
令和5年10月 国立病院機構榊原病院 院長

所属学会：
日本精神神経学会(PCN編集委員、他)、日本生物学的精神医学会(評議員、学会誌編集委員、他)、日本臨床神経生理学会(代議員)、その他

公的役職：
福岡県精神医療審査会委員(平成27～令和3)、福岡県精神保健福祉協会幹事・評議員(平成27～令和3)、その他、三重県精神保健福祉審議会ギャンブル等依存症対策推進部会委員(令和5年～)、三重県精神保健福祉審議会アルコール健康障害対策推進部会委員(令和5年～)

講演内容 -----

皆さんはスティグマという言葉を知っていますか？スティグマは、日本語の「差別」や「偏見」などに対応します。一般的にスティグマには、個人内要因と集団的要因が関係していると言われています。個人内では、精神疾患の知識が乏しい、当事者自身に偏見がある場合、自分は支援を受ける必要がないと当事者自身が判断するケースが想定されます。集団的要因としては、周囲が気づかない、周囲に知識がなく接し方がわからないなどが想定されます。皆さんのメンタルヘルスを守るために、個々人の精神疾患へのスティグマを少なくしていくことが、社会全体で協力すべき点であると思います。講演では、様々な精神疾患とそのスティグマについて紹介することで、皆さんのスティグマ軽減を図りたいと思います。



■ 開会

▶ 9:50～ 開会の挨拶(佐藤 忠)

■ 一般演題

▶ 10:00～10:40 【座長:黒原 一人】

1 手術用ナビゲーションシステムを用いて埋伏歯抜歯を行った1例

三重大学大学院医学系研究科 口腔・顎顔面外科学分野

○奥村 健哉、小泉 岳、北村 茉弥、館 祐介

手術用ナビゲーションシステムは3次元的な位置関係を正確にリアルタイムに把握しながら手術が行えるシステムである。今回、本システムを用いて左上5埋伏歯抜歯術を行なったので報告する。患者は37歳、女性。左上5は左上E歯根間から上顎洞に近接するように逆性に埋伏していた。左上Eの損傷や上顎洞へ交通することなく抜歯可能であった。

2 当科で作製している頭頸部放射線治療時の口腔内装置の紹介

三重大学大学院医学系研究科 口腔・顎顔面外科学分野

○岩中 義幸、永田 心、矢野 聖敏、黒原 一人

頭頸部放射線治療時の口腔内装置は、周辺の正常組織への被曝を軽減させるために有用な方法の1つである。これまでにわれわれは、患者からの意見、放射線科医の意見、作製工程の簡便さを考慮し、口腔内装置の改良を行ってきた。本発表では、現在使用している装置の紹介と使用状況について報告する。

3 歯科用CTを用いた骨粗鬆症診断法の開発に関する予備的研究

紀南病院 歯科口腔外科¹⁾三重大学大学院医学系研究科 口腔・顎顔面外科学分野²⁾○堀 晃二¹⁾²⁾、新井 直也²⁾

骨粗鬆症患者は国内に1,200万人以上いると推計されている。自覚症状に乏しい慢性疾患であることから検査率や治療率は未だに低く、要介護の大きな要因となっている。本研究では、歯科用CT画像を用いて骨粗鬆症患者と健常者の顎骨を比較し、骨粗鬆症の診断につながる骨構造の変化をみつけることを目的とした。

4 ビスフォスフォネート製剤の誤った服用により発生した口腔粘膜潰瘍の1例

独立行政法人国立病院機構 三重病院 歯科口腔外科

○松村 佳彦、堀 琴雅、山本 葉月、金城 優

患者は96歳女性。92歳時にアルツハイマー型認知症と診断され、95歳時に左大腿骨を骨折しビスフォスフォネート製剤(アレンドロネート)の内服を開始した。介護施設に入所後、口腔粘膜に潰瘍が出現し当科を受診した。患者は飲水困難で、錠剤を口腔内で溶かして服用していた。誤った服用方法が原因と考え、内服を休止したところ潰瘍は消失した。

■ 一般演題

▶ 10:50～11:20 【座長:藤田 剛】

5 単純性骨嚢胞が疑われた上顎骨嚢胞の1例

三重中央医療センター 歯科口腔外科

○加納 慶子、乾 眞登可、若林 宏紀、柳瀬 成章

単純性骨嚢胞は長管骨に好発し顎骨には少ない。今回、上顎骨に発生し本症が疑われた1例を経験したので報告する。患者は48歳男性。両側上顎1は失活し、CTにて両側上顎1歯根から鼻口蓋管に透過像を認めた。顎骨嚢胞の臨床診断にて摘出術を施行、嚢胞壁は薄く内容液は明らかではなかった。病理組織所見:嚢胞壁は線維性組織が主体で一部に上皮がみられた。

6 当科における抜歯後出血に関する検討

伊勢赤十字病院 歯科口腔外科

○宮崎 優里、金 利映、中村 真之介

当科で過去5年間に抜歯手術を施行した全症例と、その中から抜歯後出血に対する処置を施行した症例を後ろ向きに調査した。抗血栓薬内服の有無とその種類、止血シーネ作製の有無、採血結果、抜歯部位について調査を行い、抜歯後出血との関連性を検討したので報告する。

7 顎骨再建が必要な下顎歯肉癌患者に対して多職種により早期退院支援に繋がった1例

済生会松阪総合病院 歯科口腔外科

○梅田 みさき、前川 礼子、松田 未梨、八原 千草、堀木 陽日、森川 はるな、鈴木 康昭、菊池 起夫、密田 正喜仁、大倉 正也

今回我々は、顎骨再建術が必要な下顎歯肉癌患者に対して、SSI(手術部位感染)を含めた術後合併症等の予防を目的に口腔機能・衛生管理を実施、さらに多職種が介入し、コミュニケーションを取ることで早期退院支援に繋がった症例を報告する。

■ 特別講演

▶ 13:00～14:00 【座長:佐藤 忠】

教育による日本再興論

～いま、子供たちに求められる学力とは何か?～

講演者

eisU 最高執行責任者
情報経営イノベーション専門職大学(iU)客員教授
伊藤 奈緒 先生

■ 一般演題

▶ 14:15～14:45 【座長:北川 順子】

8 乳幼児期の口腔ケアについて -歯科衛生士の目線から-

三重県立公衆衛生学院同窓会 飛翔会/
伊勢赤十字病院 歯科口腔外科

○木田 莉里佳

乳幼児期の口腔ケアは、将来の歯の健康を保つために非常に重要である。日々の子育ての中で口腔ケアに悩み、歯科衛生士の目線になって実践した方法を発表する。また、多くの母親から聞かれる不安や疑問について、口腔の専門家として実際の経験を交えて調査したため報告する。

9 歯周治療における規格性の高い資料の大切さ

さかのデンタルクリニック/
ユマニテク医療福祉大学校同窓会若葉の会

○田中 綾香、稲垣 瑠亜、神田 莉菜、山内 沙耶、
アントワン 涼子、市川 真喜子、宇井 みゆき、坂野 雅洋

歯科衛生士として歯周治療に携わるにあたり、規格性のあるパノラマX線写真、デンタルX線写真(14枚法)、口腔内写真は非常に重要であると日々実感することが多い。この発表では、実際の症例を用いて規格性のある資料のメリットや日々の診療で扱う難しさ、また歯科衛生士6年目としての気づきや課題も併せて発表する。

10 口腔ケア早期介入により

早期退院に繋がったと考えられる尿路感染による敗血症の症例

済生会松阪総合病院 歯科口腔外科

○松田 未梨、前川 礼子、梅田 みさき、八原 千草、堀木 陽日、
森川 はるな、鈴木 康昭、菊池 起夫、密田 正喜仁、大倉 正也

90歳女性、202X年10月に尿路感染、敗血症ショックにて当院内科に入院となった。急性炎症所見とともに口腔内衛生不良と疼痛のため口腔細菌検査施行。真菌検出のためミコナゾール錠投与を開始し、同時に口腔ケアを行うことにより誤嚥性肺炎等を抑制することができ、早期退院に繋がったと考えられる症例を報告する。

■ 教育講演

▶ 15:00～16:00 【座長:新井 直也】

精神疾患へのスティグマとは?

講演者

独立行政法人国立病院機構
榊原病院 院長
鬼塚 俊明 先生

■ 一般演題

▶ 16:10～16:35 【座長:鈴木 晶博】

11 歯科衛生学教育の現状と展望

三重県立公衆衛生学院¹⁾ / 伊勢保健衛生専門学校²⁾ /
ユマニテク医療福祉大学校³⁾

○前田 尚子¹⁾、島田 裕子²⁾、北川 順子³⁾

近年、健康志向の高まりや口腔機能の重要性が叫ばれるなか、歯科衛生士の役割は益々拡がりを見せています。今回、全国歯科衛生士教育協議会における養成校アンケートの結果をもとに、最近の歯科衛生士養成の動向、また現在、学問としての体系化がすすめられている「歯科衛生学」についてご紹介できればと考えています。

12 歯科衛生士の名称の成り立ち — 学生さん達へのエール

三重大学大学院医学系研究科 口腔・顎顔面外科学分野

○新井 直也

清潔を保つことで健康を保つという意味の“hygiene”という英語を、“衛生”という日本語に訳したのは、長与という明治初期の医学者でした。歴史ある言葉であり、医療の国家資格の中で“衛生”という言葉が入った職種は歯科衛生士しかありません。ここでは、歯科衛生士の名称の成り立ちと、そこに込められた意味をお話します。学生の皆さんが職種に誇りを持つ一助になればと思います。

■ 閉会

▶ 16:35 閉会の辞(藤田 剛)

Please

●発表者の方々へ

- 発表形式:スライド単写、横スライドのみ、枚数制限なし。
- Microsoft office 365 PowerPoint を用います(Mac 使用の方は実行委員会までご連絡ください)。
- 口演時間7分、質疑応答3分、6分経過時にベルを1回、7分でベルを2回鳴らします。質疑応答につきましても時間厳守をお願いいたします。
- 本大会の抄録は三重医学会雑誌に掲載致します。三重医学会雑誌の投稿規定に沿う必要があるため、500字以内の抄録をこちらのメールアドレス(wdentalmeeting@gmail.com)まで送付してください。
- 事後抄録は、演題番号、演題名、所属、氏名(筆頭演者に○印)、抄録内容をWordまたはテキストファイルにて記載してください。

●座長の方々へ

- 時間厳守をお願いします。10分前までに次座長席へお座り下さるよう、よろしく申し上げます。

Floor Map

アストプラザ4F アストホール

